



目次

研究

林務主任會議提出事項

視察雜感

鄧園の種類と分布

文苑

森の獨語

春の寮生

雜報

學校便り

マラソン競走

歡迎の記

會員消息

校友會決算

謝恩金募集

他

〔1〕 日五廿月五年七正亥 號參百第 {日四十月六年四十四治明} 日五廿月每
 {可認物便郵種三第} 行發期定

研究

本縣林務主任會議提出事項

右は五月九日より十一日に至る同會議に於て提出せしもの今參考の爲茲に轉載す

甲、指示及注意事項

一 公有林野整理開發に關するの件

公有林野整理に關しては本年二月内訓第二號を發布し整理方針及其管理處分取扱方針を定め、督勵を期すると共に、機關を増設し一面林野警察の取締と相俟て、大正十八年度迄に之が整理を完了せむとす仍て各其分に應じ充分其聯絡を計り、指導提擧以て本事業の達成に努むるを要す。

一 公有林野造林事業に關するの件

公有林野造林事業は他の事業に比し、豫期の如く進捗せず、爲に不振の状態にあるは甚だ遺憾とする所なり。仍て今回該補助規定の一部に改良を加へ從來補助金に對し金額の制限ありしを撤廢し、最近造林費昂騰の衡平を保たしめ以て、本事業の促進を期せむとす、而して以上制限撤廢と共に補助金交付上、其算定の基礎となるべき施業費の査定は一層之を嚴にし事業の効果施行の難易を計り、補助の公平と事業の成功を期せむとす、特に留意指導せらるべし。

一 公有林野管理處分取扱方針第八條に依り、管理確實なるものに非ざれば許可せざる方針なり、然るに往々管理不確實なるものに對し單に施業上の見地のみを以て打合せらる向あり、殊に保安林及開墾禁止制限地に對しては此例甚だ多く取扱上不便少からず、將來必ず管理狀況をも詳細具申されたし。

一 森林組合設立に關するの件

森林組合の設立未だ意の如く進まず僅に四五を算するに過ぎざるのみならず、而かも既設組合事業の如き亦不振なるは頗る遺憾に堪ざるなり、本設立獎勵金(省令第一五號)は大正九年度に於て打

もの等に就ては、必ず町村長をして其事實を調査せしめ速に報告せしむを要す。

一 公有林野管理處分に關するの件

公有林野の管理處分にして同取扱方針第十條第四號に依り矮林及喬林の手の爲伐採を許可するに當りては、其林野狀態に照らし施業上遺憾なきを期せらるべきは勿論なりと雖も、未だ施業方法を確定せざるものに對し往々取締の方法其他の制限を附せずして之を許可せらるる向あり、如斯は施業監督上甚だ寒心に堪へざるを以て、本件許可に當りては取締の方法を設くるか、或は面積を制限する等其他適當の處置を講ずる様留意ありたし。

一 公有林野管理革弊に關するの件

公有林野及產物の處分并に管理行為は公有林野管理處分取扱方針第八條に依り、管理確實なるものに非ざれば許可せざる方針なり、然るに往々管理不確實なるものに對し單に施業上の見地のみを以て打合せらる向あり、殊に保安林及開墾禁止制限地に對しては此例甚だ多く取扱上不便少からず、將來必ず管理狀況をも詳細具申されたし。

一 森林組合設立に關するの件

森林組合の設立未だ意の如く進まず僅に四五を算するに過ぎざるのみならず、而かも既設組合事業の如き亦不振なるは頗る遺憾に堪ざるなり、本設立獎勵金(省令第一五號)は大正九年度に於て打

切となるべきを以て、此際一層設立を奨励すると共に既設組合に對しては施業の指導、低利資金の活用等、事業振作上便利を與へ以て堅實なる發達を期する様努めらるべし。

一木炭供給に關するの件

木炭は大正五年度末以來市價著しく騰貴し、大正六年に於ては終始上騰せり、是畢竟一般物價騰貴に伴ふ結果に外ならず木炭の如き日用必需品にありては、之が供給を潤澤にし極力需要の圓滑と價格の平準とを期せざるべからざるは論を俟たざる所なり、然るに由來薪炭林は其經營頗る疎放を極め之が生産保續に關し、甚憂慮すべき状況にあるは争ふべからざる事實なり、故に其需給の調節を全ふせむには須らく根本的に稽查攻究を要すべし、各郡に於ても夙に留意せらるゝ所なりと雖も猶一層適切に之が將來に關し畫策するの必要を認む、諸君は此際十分指導誘掖に努めらるべし。

一植伐に關するの件

内外需要の趨勢に鑑みれば木材の需要は將來益々増加すべきは殆ど疑なき所なるを以て、之が供給保續に關し努力を要すること一層切なるものあり、然るに林業の現勢を見るに、伐木漸く亂雜に流れ造林亦遅々として振はざるの觀なきに非らず、之を統計に徴するに年々の造林面積は天然更新として計上せらるゝもの多きを占める人工造林は伐採面積に及ばざる事遠し、斯の如き状態を以てしては、植伐並行を全ふし又克く林木供給の潤澤を望むこと到底不可能と謂はざるを得ず、造林法は必ずしも人工に依るを要せざるは勿論なりと雖も、統計の示せる天然更新は其實績に於て、果して將來に安んずるに足るべき結果を擧げつゝありや否や疑なきを得ず、管に面積に止まらず、樹種の撰擇、苗の供給、保護撫育の方法等、攻究改善すべき点頗る多かるべし、殊に寒心に堪へざるは現今財界の好況に乘じて大木良材を濫伐し、而も造林之に伴はず途に或は良材の迹を絶つに到らむ事之なり、諸君は宜しく木材需給の趨勢に留意し植伐其途を誤らざらしむべく、一層指導誘掖に努力せられむことを望む。

を占める人工造林は伐採面積に及ばざる事遠し、斯の如き状態を以てしては、植伐並行を全ふし又克く林木供給の潤澤を望むこと到底不可能と謂はざるを得ず、造林法は必ずしも人工に依るを要せざるは勿論なりと雖も、統計の示せる天然更新は其實績に於て、果して將來に安んずるに足るべき結果を擧げつゝありや否や疑なきを得ず、管に面積に止まらず、樹種の撰擇、苗の供給、保護撫育の方法等、攻究改善すべき点頗る多かるべし、殊に寒心に堪へざるは現今財界の好況に乘じて大木良材を濫伐し、而も造林之に伴はず途に或は良材の迹を絶つに到らむ事之なり、諸君は宜しく木材需給の趨勢に留意し植伐其途を誤らざらしむべく、一層指導誘掖に努力せられむことを望む。

一林地並に林産物の利用に關するの件

林地並に林産物の利用に關するの件
林産増殖上林地並に林産物の利用を集約ならしむるは、現下の要務にして一日も之を忽緒にすべからず、歐洲交戦國に於ては今次戰亂の影響に鑑み、兵馬倥傯の際なるにも拘らず物資の自給に焦心し、林業上に於ても夫々施設を怠らざる。近時我國に於ても造林上に利用に各其面目を改め來れるも未だ之が實行上徹底せざるものあり、即ち土地利用に於ては、林地の利用を集約ならしむるは勿論、進みて河川沿岸等經濟上未だ有利に使用せられざる土地に造林するが如きは、木竹材

の生産を増加すると共に、國土保安上の効果を擧ぐるに鮮少なからざるべし、其他宅地等の空地に有要樹を植栽するは、本業の餘暇を利用して容易に之を行ひ得べきことにして其効果大なるものあるべし、又林産物利用上に於ては、一面木材利用能率を増し利用價值を高むるに努むると共に、廢物の利用林産の節約に力め其供給を潤澤ならしむるは最重要なるを以て、諸君は此趣旨に依り指導奨励上一層努力あらむ事を望む。

一林地住民の副業に關するの件

林地住民の副業に關するの件
林産物中副業に關係あるもの一にして足らずと雖就中、製炭、木竹製作品、小規模木材乾留、醋酸石灰、椎茸栽培、松脂採集等は現今各般の産業状態に鑑み、殊に有望の事業にして奨励の價值大なるものありと認むるを以て、郡の状態に應じ適當の措置を採らむことを望む。

一林業と他の産業とに關し特に注意を要するの件

林業と他の産業とに關し特に注意を要するの件
晩近殖産興業の發展に伴ひ林業と他の産業との關係、倍々錯綜し林業當事者の注意を要すべき事項尠からず、例へば水力發電事業發達の爲從來の流材事業に影響を來たし、延ひて林業の収益を害するものあらむとし、或は鑛石採掘精鍊等隆盛の爲林地の荒廢に委せらるゝものあらんとし、或は牧場の新設又は増設に伴ふ林野の關係其他、材價昂騰の結果社寺境内

木、宅地園りの樹木又は並木の如き盛に伐採せられ風致維持及大木保存上特に顧慮を要するもの尠からず、諸君は是等の事項に關し分課担任を異にするものありと雖も、常に各種産業の施設並に其影響に留意し、林業經營上適當の處置を怠らざらむことを望む。

一町村林業技術員設置に關するの件

町村林業技術員設置に關するの件
町村林業技術員の設置は大正六年度に於て二十三ヶ町村本年度の設置見込二十七ヶ町村にして、未だ普及の遅々たるは甚だ遺憾なり、殊に前年度設置の廿三ヶ町村中一ヶ年を通じて設置したるものは、十七ヶ町村にして爾餘の六ヶ町村は、中途を廢止するに到りたる如きは人選上の結果に起因するものなるべしと雖も、斯業の爲實に遺憾とする所なり、殊に近來實業方面に於て多數の技術員を吸收し府縣郡等に於ても亦技術員を増置するの計畫あるが爲、自然人物拂底を告げ適當の人を得ること甚だ困難にして、本年度に於ても尙尠數箇町村の未設置あるが如き状態にあるは甚遺憾とする所なるも、要するに技術員設置の効果は其人を得て初めて達せらるべきものなれば、相當林野を有する町村に對しては一層之が設置を奨励せらるゝと共に、之が入選に付ては充分注意を傾注し、尙町村技術員の指導誘掖事業の連絡等に關しては常に注意を怠らず、其効果を益々大ならしめんとす

一林野保護取締に關するの件

林野保護取締に關するの件
林野保護獎勵金交付規程に依り大正六年度に於て市町村より獎勵金の交付を申請せるもの三十六ヶ町村、規程第二條第五號及第六號により縣に於て調査し又は郡長若しくは町村長の内申に係るもの、團體五十三、個人三十、計八十三にして目下其成績調査中に屬するを以て、不日夫々決定を爲し獎勵金の交付を了する見込なるが、大正七年度の申請数は約四十ヶ町村にして未だ普及の前途遠なるは遺憾とする所なり、林業の經營上林野保護取締の緊要なる事は今更多言を要せざる所にして、縣は本年度に於ては更に經費を増額し之が奨励を爲さむとするの計畫なるを以て、諸君は此旨を体せられ極力斯種設置の奨励を爲さむことを望む、尙之が計畫に付ては事業の性質及豫算の編制并に事業の執行に關し相當指導せられたし。

一樹苗圃設置獎勵に關するの件

樹苗圃設置獎勵に關するの件
樹苗圃設置獎勵に關し左記事項注意せられたし。
イ、樹苗圃獎勵金交付は本年最初の事業に付自然申請書の提出期運るゝものあるべきも、右は餘り遅延せざる限りは、其事情を斟酌して之を受理する見込なるを以て、此際尙奨励を加へられたし、又該書類にして不備の点あるものは十

分審査を遂げ進達せられたし。
ロ、樹苗圃新設經營に對しては郡に於て懇篤に指導せられ度、尤も特種のものにありては縣よりも吏員を派し指導せしむる見込に付き、豫め一般に周知せしめ置かれたし。
ハ、樹苗圃經營上所要の種苗購入に關し、四月六日付林乙發第三二號を以て郡長に通牒し置きたるが、尙其旨の徹底する様特に注意せられたし。

一林業に關する同業組合の設置奨励に關するの件

林業に關する同業組合の設置奨励に關するの件
物産の改良増殖を圖り當業者の利益を増進する上に於て、組合團體の必要なることは言を俟たざる所にして、各府縣に於ても鋭意之れが奨励をなし、現に重要物産同業組合法に依り設立せる林業に關する同業組合の数は林材木、木炭及木竹製品等に於て八十餘を有し、山林局の主管に屬する木炭、木竹材及椎茸の製造販賣并に苗木の栽培販賣を業とする同業組合のみにても三十を算するに係はらず、本縣に於ては同業組合法に依るもの一組合同業組合法に依るもの三組合を有するに過ぎざるは洵に遺憾とする所なり、右組合の設立に付ては既に相當計畫せられつゝある向ありと雖も、此際一段の努力を須ひ之等組合の設立を奨励せられ、林産物又は其副産物に付粗製濫造の弊を矯め之が改良發達を圖り利益の増進を希

ふ上に於て遺憾なからしめん事を望む、殊に本縣木炭の産額は、去年千三百餘萬貫、價格百餘萬圓の巨額に上り、縣下重要物産の優位に立つにも拘らず、之が製造法装束の統一及販賣方法等に關し、改良を要すべき点多く、同業組合の力に俟つべきもの尠からざるものあるを認むるを以て、特に此点に留意し各郡の狀態に鑑み適應の指導を加へられん事を望む。

乙、協議事項
 一 苗木販賣商及仲買人取締に關し規定發布の件
 一 苗木及樹竹林の凍害善後策の件
 一 營林上使用人夫の供給に關する件
 一 杉苗木の供給に關する件

(上水内郡提出)

理由
 造林上重要な地位を占むる杉の苗木は、先年來赤枯病の犯す所となり造林を阻害すること尠からず、洵に遺憾に堪へず、依て健全なる杉苗木の供給に關し適當の方法を講ずること付協議せむとす。

丙、打合せ事項
 一 御料林國有林に對する地元町村民の林野保護に關する件
 一 御料林國有林公有林は相互其境を接すること多く、林野取締上密接なる關係を有し、殊に其地元民の愛林思想に負ふ所甚大なるを以て従來這種の施設状況を窺ひ將來適當なる方策を樹て御料林國有森林官吏、

視察雜感

宇志生

三月下旬各種視察の爲め、伊香保、秩父、箱根、岐阜地方を巡る、有觸れたるものにして、格別参考に資するに足らざるべきも、折に觸れ、眼に映し、心に浮びたる断片を綴りて紙隅を汚す。

○笹類は越後地方にて持餘されたる林産物の一なり、關東方面は炭俵の底に之を用ふ、檜の若木に困り乍ら、尙笹の利用を爲さざる雪深き、風當り少き山國の人を憐む。

○梅咲ける澁川より十五分の一の勾配を、電車は電光形にうめき登れば、三千尺の高地伊香保は雪白く敷きて、幽趣一層深く、榛名の山突兀として迫り立つ、氣乾なる處扁柏繁り、杉の樹勢壓せられんとす、氣中の濕氣多き所、此れ杉の氣負ひ立つ

所也、
 ○群馬、埼玉の境、神奈川一滴の水を認めず、降雨時は巾二拾間に尙濁流の溢れ出づる水無き河之れ何の因ぞ。

○伊香保の挽物細工は、近縣より集めたるもの八分、其土産品箱根の寄木を主とす、盆の椀地も越後よりするもの多し、それでも伊香保の焼印を押さざるなし、世は如何にして人を誤魔かさんかを努むる時なり。

○世に云ふ成金輩は恰も蠅引の盆の如し、黄金てふ蠅刺ぐれば、見るに堪へざる貧弱、淺ましきもの也、今や人漸く醒めて、蠅に代ふるに漆を以てす、然るに黄金の蠅は依然として外見を粉飾し糊塗して指彈すべき醜体を演ず、余は漆盆一枚を彼等に進呈せん事を世の人に勸む。

○關東地方は十二月以來の乾天に、野火を懼るゝ事、英の獨を懼るゝよりも甚し、北陸は若草萌ゆる迄徐々として雪消ゆ、天下泰平なるは越後の春なり、世界戦亂に對する日本の春なり。

○奈翁の金、金に對し、どうも人、人、人と云ひたし、人によつて興り人によつて亡び、人に成り人によつて敗る之を秩夫木炭同業組合に見る、今日の盛果は全く松本組合長の熱血と努力と誠實不羈に歸す。

○一二の町村検査を肯せざるや、自ら有志を勧ひて趣意を説く事懇又切、尙遂に聽

かざるや、郡物産の爲めに斷乎たる措置を取り、今や却而彼等が衷心より歡喜の聲を聞か、撫づる時に撫で撲ぐる時に撲ぐれば小人服し事亦成る。

○今や關東に於ける第一の組合となり年産四百五十萬貫、價格六拾萬圓に上らんとす、東都の聲價朝暁の如くに發揚し、周郡風を望んで、加盟を乞ひ荷粟の販賣を望むものあるに至る。

○木炭界今や有頂点にして、馬鹿げた昂騰に伴ひ、粗製濫造又尋常茶飯事ならんとする時、有識の士は一度駕を茲に枉げて松本組長の説を聞くべし、疑問氷釋して、得る處蓋し獨の露を得たるに超ゆべし。

○今や何處の地も醋石は引張風なり、日醋も阪醋も新醋も近藤も何も彼も、巴入り亂れて、掻き集めに努む、故に相場も何もあつたものにあらず、五六%位のものが出元にて一圓二拾錢をも超ゆ、醋石を作らば全く今時なり、粗製多造が勝を占むる時なり。

○一寸儲かると云へば、直ちに眞似するが日本人の通弊なりと或人は云へり、成程新潟に大坂煎餅屋が一軒出来、目の廻る程賣れて一日拾圓以上の利ありと云へば旬日ならずして數拾軒の眞似屋が出来、現狀なり、時局の有難さから醋酸が日本の獨占品となり、南洋の護謨製造迄繩張したる今日儲からざる事なし、醋酸會社

類發の所以なり
 ○然れども今からの醋酸會社は、自ら半數以上の生産をなし得る自營の乾留工場を設立するにあらずんば、結局は共喰となりて斃るゝか、然らずんば一つの大きなものに併吞せらるべし、炭焼の浮模なる頭迄を、投機師的商取引の渦中に投ずるは、洵に危險なる状態なり。

○何處の醋酸會社も、其工場は絶対縦覽を謝絶す、静岡にても秩父にても逢へり、我が新潟も等しく夫あり、秘密なくして秘密あるかの如くにす、是能率の低下をむやみに眞似して、同類の續出せらるゝ事を懼るゝ、尻の穴の小さき事を示すものなり此れだから日本人間はと云ひたくなるなり。

○炭窯の煙は四周の峯巒にたなびき、醋石の釜、谷々に設けられ、秩父の景氣は今や絶頂、絹物を纏はざる下女もなし、されど茲にも水なき河の幾つかあり、井水枯れて水を買ふ秩父の町あり、所詮自然の威力は金では買へぬなり、景氣で動かされぬなり。

○現在北陸關東東北の薪炭材の主要なる部分はブナなり、深山己に斧鉞加はれり、ブナなき後の薪炭材やめば、遠き將來の如くして近き歸結を要す余輩にはどうなる事か一寸見當がつかず。

○熊谷の櫻々として、堤上を這ふて花蕾尙堅し、保勝會とやら盛んに都人士の汲

引策を講じつゝありき、近頃河川の改修に伴ひ、巾廣き堤防所在に出現す、余輩は盛に櫻樹の植栽を云ふも、土木の役人は容易に肯せず、之には理屈もあるべし、又どうせ植むるならば竹か、役に立つものを植ゆべしと主張するものも少からず、國産奨励、自供自足てふ歐洲の賜にかぶれての事なるべし、至極結構なる事に相違なきも、只でさへ我利我利の亡者のうよ／＼せる現代に、何處も彼處も實用づくめにては、余裕ある氣分はチツほけの日本人には無くなるに至らんかを懼るゝ、殊にいくら騒いでも、日本の工業は此の馬の脊の様な者丈では、到底充分な原料を得る事能ふまじ、今隣りの大國を利用して英國に倣ふの要あるべし、單純なる余輩の頭では日本の本土は櫻でも植えて所謂風光明媚の樂土となし、袖長き美人でも配して、歐洲の御客様を出來得るだけ吸引すると共に一面製造所とし、御隣の廣大なる沃野を拜借して、茲へ綿でも木でも草でも出來得る限りの資本投下、勞力傾注、世界の大生産地とし、切つても切れない深い仲となるのが、此の日本の得策、賢明なる國是にして對支外交の巧拙は如何にして、此目的を甘く當り障りなく遂行し得るか否かに歸すべし、國民全体が今少しく眼を大にし、腹の底を固むるを要せずや。

躑躅の種類と分布

躑躅の種類と分布
(野) 躑躅の種類と分布
小松理學士は小石川植物園に於て我國躑躅の研究者の權威者である。

石楠木に就いて

石楠木に就いて
種々の變り物を作り出され居るが、我邦では外國種を輸入したもので、外日本種としては未だ行つて居るものがない。

ある栽培法に就いて

ある栽培法に就いて
延ては主幹を枯死させて了ふから庭木として作るものは惜げもなく此側枝を切捨てる事は勿論である。

文苑

森の獨語

森の獨語
○其れ二睡を求むれば夢も又縁であらう、葉々日を帯んで緑玉碧玉が頭上に降る林の中に座して、亭々たる樹幹を仰いで蒼穹に對した時は、自分が嘗て覺けた事の無い喜悅と幸福とに接する事を得る。

○更に行を變つて

○更に行を變つて
「ところで此海岸の住民の一人をつかまへて、ズット奥深くの、汝の見出し得る山の間、樂しい谷間に連れて行つて極く上等の食物と寝台とを與へて見給へ。彼は汝の食物には手も觸れず、寝台にも寝ないであらう。そして四邊を見廻し、遠くの遠くに其よく知つて居る青い様な物の輝いてゐるのが見ゆる迄は。」

○人間は樹木より三日も後

○人間は樹木より三日も後
人間は樹木より三日も後れて此世に出てきた。汝、人の子よ、産めよ、榮えよ、而して地に充てよ。海の魚、空の鳥、地上に棲める生物は、凡て征服して汝がものとなし、萬物の靈長となりて此土を長く治めよ。地上に生ずる果物は凡て汝の物たるべし。こう云つて神は人間を造つたのである。

「人間は死して元の土に歸るべし」と樂園から放逐された。人間は僅な木の實の爲に入生五十年で土になるべく餘儀なくされてしまつたのである。人生と木の實、面白い對照である。東洋を初めて歐洲に紹介した有名なマルコポーロの東洋紀行に、
 「ジャバングは大陸の東一千五百哩の海上に在りて甚だ大なる島なり、人民は色白く文明にして容儀に媚へり、彼等は偶像禮拜者にして何人にも服屬せず、彼等の有する金の分量は無限りなり。」
 何となれば彼等は金を自國にて採掘して王は其輸出を許さず、且大陸より遠隔せるが故に商人の該島を訪ふもの少なければなり是れ無限に大量の金を有する所以なり」と書いた。彼の紀行録は一二九五年クラッラ海戦の波が靜まつてから、其敵國たるゼノアの獄中で編輯した彼が往年の旅行談であつた。

當時の青年は勿論、老人も讀んだ、兒童も讀んだ、可憐なる婦人さへも其机上に備へる事を忘れたかつた、あらゆる階級の人々が其内容の珍奇と文章の平易とを讚美したのであつた。

○ポーロは更に筆を繼いだ、「余は該島の君主の大なる宮殿に就いて語るべし、君主は大なる宮殿に住み、其屋宇は全部金を以て掩ひたる事宛も我國の教會及家屋が鉛を以て掩はれたるが如し。尙又宮殿一切の敷石及其各房の床板は全部金板にして指二本

角用意した苗木を全部植附するに二時だ。岩の澤は學林へ遠く先生の御慈悲で疾風の様に同じ小路を南寮、北寮、その下は懐かしい父母の、下は飛ぶ鳥もあつた。汗でビッシリなシャツは心持が悪いが、風呂の煙が黒く濃く流れてをるのは馬鹿に嬉しい。味噌嗅い炊事場の側を通つて渡廊下で草鞋を解き、十人の内稀れに一人位の博愛者(石輪持の人)に禮も言はず使つて失敬と、風呂場を辭して、二安心とすれば、琴平山にも小丸山にも春のアトモスフィアは流れて居る「君行かう行つて風趣限りない峽間の風景をさぐらう」此んな會話を廊下で交し、コトラ服に高足駄一寸骨がたれど、關所橋を渡つて琴平山の中腹に來たと想ふ時、脚下に裁判所、長福寺、小學校と散らうともせない櫻花が、暖かい陽光に酔うてをるのは嬉しい。

書題として好適な餅草つむ白手拭の處女の一人三人、或は赤紫のバラソルを斜にさして山を縫ふ可愛少女等が此の質朴な岐蘇を妖艶化して居る。
 ビーと上り五時の汽車が停車場に止つた。御嶽の蔭に日は落ちた、時求むる鳥聲と、繁盛を極めた蛙聲とが急に強く響て、ツツイライトの寂寥がセシ、胸に答へる。
 小丸山も琴平山もぶるれば鳴る青年の心に書くべきサムシングの起らなかつたのは、峽國の公園、夫れから山驛、此等が餘りに部分的な背景にさらはれて雄大がなく、思

の厚あり、而して窓も亦金なれば、此の如き宮殿の價格は之を計量する事も想像する事も共に難し又日本には眞球も……」と説いた。然し黄金の國は黄金を持たなかつた至る處金と云はれた國は緑涼しい樹々を清冽なる泉と見た、金と云はれた窓や床は皆木材で造られて居た。
 ○ポーロの紀行が餘りの臆測にしろ、餘りの誤謬にしろ、現代では眞實に森林は黄金である、物質的に、精神的に。

春の寮生

裏山演習林の落葉松は鮮かて明るい新緑を裝うてをつた。起床の鐘は何時鳴つた、と言ふ様で良く眠れる事たらない。
 苗圃地拵、土籬、と同一區域の五つの苗圃を石を掘り出し、繩を張つて十分乃至十五分の休を短かくそうして楽しく送り、或は打振ふ鍬のシャインと行術とを追うて立つてをる黙した先生が、苦勞知らずの様に見えるたのも、あ、最う歩らぬ過去となつた。
 友等皆黙して鍬を取りにけり
 實習主任の廻り來る見て。
 ワッショ、又関の聲聞ゆなり
 四組の群の石掘る聲が。
 鍬を持つ人が振らるゝ程なれど
 先生笑うて時の來る迄。

去年の秋下刈したあの岩の澤をマクリ下して、植栽地の地拵を終つた杭ノ原の山の兒は、メンバを腰にぶらさげて今日も亦例の

考約だつたに相違ない。八月二十日、風月堂の菓子、芦澤、藤森の圖書と食ばり讀んで、往來の足繁きに必づき時計を見らる最う検査迄二十分何にも彼も打忘れ検査をすますと窓漏る風は冷たい。
 僅か一時間の自習時間を、小使室で暖を取り舎監先生に見つかつて御コト頂戴し、やがて隨意就床の九時の鐘が鳴り消燈の報に接すると、最う寮内には當直の淋しいゾイの音と、電氣會社の水力の響、そうして、クツキツとした運送夫の木會節、黒川の清き流れ、此れ等の高い低い自然のメロデーのみが耳朶を打つて寮生が夢路幸あれと祈る様である。
 (暖かい日曜の午後稿す)

學校便り

○實習終了、四月二日より開始せる春季實習は五月四日を以て終了せり
 ○北村教諭退職、多年本校に奉職せる北村教諭は病氣の故を以て本年三月末退職願提出の處四月廿九日付を以て許可せられ同時に八級俸を下賜されたり因つて五月四日講堂に於て告別式を行ひ七宮校長の送辭、米久保生徒總代の送辭、北村教諭の挨拶あり生徒一同よりは紀念品を送る事とし目録を呈せり、越つて六日午後五時同教諭は郷里へ向け出發せられたるを以て職員生徒一同

植附だ。
 「苗木苗木を三十本づつ持つて行け」と先生が命を下した。若いウツドマンの群は峽谷の田圃の畦を蜿蜒つて何時しか山路にかゝる。
 長々と同じうねりの山路哉
 汗にまみれ咽は乾き喘ぐ聲のみ高きに、同じカーブの山路、目で一休を願ふも面白。
 「先登早イゾ」と後から續く人人の、苦しい聲が段々少なくなつて來ると最う十時近くなつて、ドツカと大木の根や石の上に腰を下して、實習服のボタンをはずせば春や晩し木會の薫風は依然と寒むい。
 十五分の休が汗を拭ふ間に終つて三年生一人に一年生一人の割合で付き、上の方から條を通して下の方へ植ゑて來ると、十一時になつてたけなす想をめぐらした晝食だ。
 嫩青柔かな樅や桐の下で三三五五メンバを開くあゝなんと心持良い事だらう。
 駒ヶ嶽の白雪、嶽麓の青、高き蒼穹と親しんで腹を肥やし唱つたり語らふ愉快さは、あゝどうしても僕等の忘れられぬ快中の快事だらう。
 何時の間にか駒ヶ嶽の上を白雲が飛ぶ様になつて、風も強くなつて來ると「始メー」と眠らうともしない先生は忙しい様に高きうけぶのだ、妄想や空想や一寸の夢路に無我だつた、ウツドマンには扱て如何にか強く響いたであつたらう。
 「飯を食つた様に行れ」眞面目に面白く鬼に

停車場に見送れり

○塚越教諭新任、飯島教諭の後任として五月七日新に塚越教諭着任せられたり辭令左の如し
 千葉縣君津郡立周准農學校助教諭
 任長野縣立木曾山林學校教諭(給九級俸)
 ○小貫囑託出張、小貫囑託は五月五、六兩日開催の京都武徳會柔道試合に參加し優勝を得て歸校せり、尙里見擊劍教師は松本警察署より出場せるが、是亦優勝を得、殊に宮殿下御前試合の光榮を擔ひて歸校せられたり
 ○西澤教諭出張、五月十、十一兩日長野縣廳に開催の林務主任會議に出席し十二日歸校せられたり
 ○任命、今回左の通り任命ありたり
 三學年級主任ヲ命ズ 塚越 教諭
 庭球部顧問ヲ命ズ 全 上

○開校紀念式、五月十五日は本校開校日に相當するを以て、午前八時より講堂に於て記念式を舉行し校長の訓話ありて九時閉式夫より校友會各都は夫々思ひの運動をなし一日を愉快に費せり
 ○修學旅行、修學旅行は例によりて三年は關西(十四日間)二年は關東(十一日間)にして付添教員は三年、西澤、塚越兩教諭。二年は新家、島内兩教諭なるが廿日頃出發の豫定なり

金壹圓 松澤莊 金七拾貳錢 樋口智太郎 金七拾貳錢 宮崎健二 金貳圓 塚本三 金壹圓 尾重 金壹圓 乙谷耕要 金壹圓四拾四錢 市川 金七拾貳錢 千島川 金八拾四錢 小市 金貳圓 羽根 金七拾貳錢 小宮下根 金七拾貳錢 小池 菊地 金壹圓八錢 菊地 貞新 敬信 安重 喜一 潔一 吉人 清樹 治朗 久郎 次伍二一治郎喜一潔一吉人清樹治朗久郎

拜啓初夏の候益々御健勝の段奉慶賀候林
者小生儀去る明治四十四年七月以來山林
學校教諭の筆職を汚し居候處此度止むを
得ざる事情により退職する事相成去る
三月下旬辭表を提出せられ候間四月廿九日
附以下願書を提出せられ候間四月廿九日
み馴れし木會の地と御別れ致し昨日郷里
土佐に歸着仕候中は何等の効績無かりし
山林學校在職中の何等の効績無かりし
みならず生來の淺學短才加ふるに教授法
拙劣にして冗長難解の講義を爲すに徒ら
諸君を苦めたる罪の淺からざるにも拘ら
す却て一方ならぬ御厚情を辱しし君得
御庇護により大過もなく今日迄勤続し得
相隔たり自然相會する機会も少かるべく
と存候へ其元山林學校の教諭たりし事
決して忘却致間敷候間將來とも不相變御
交誼の程願上候儀以紙上御挨拶迄如
斯に御座候 敬具
高知縣長岡郡岡豊村笠ノ川
五月廿日 北村正夫
校友會員諸君

内藤兩先生謝恩金募集廣告
北村兩先生謝恩金募集廣告
拜啓陳者内藤先生には明治四十三年以
來教授囑託として北村先生は明治四十
四年以降教諭として本校の爲御盡瘁下
され候處今回内藤先生は御都合に依り
職を辭せられ北村先生には御病氣の爲
退職致され候に付ては此際謝恩金を呈
し聊か兩先生の勞に酬ひ度と存候間左
記御諄知の上應分の御寄贈に預渡此段
得貴意候也
一、振替にて御送金の節は東京二七六
〇番木會山林學校宛のこと
二、締切期日は七月十五日限
三、領收證は不差上林友誌上にて御報
可申上候
大正七年五月 校友會
卒業生各位

編輯部より

◇櫻花辭して山吹代り會峽の天地漸く初夏
のジョーンと相成候、暖國の地は既に濃翠
滴るの候と存候。會員諸兄には此活動の好
期を迎へられ嘸かし得意の御事と推察仕候
◇雜誌林業國が第三拾六號に於て校友會誌
記事として最上のものなりと、賞讃致し候
て、生等迄が肩身の廣さを覺候候坂本氏の
心血よみなれる昨年來の記事「渡鮮一年有
半」は前號を以て名殘惜くも完了仕候。
◇修學旅行も今月中の事とて、又々來月よ
りは例年の千篇一律なる旅行日誌を以て、
誌面を塞がざるべからざるかを思へば、多

少陳腐不滿の感なき能はざるものに御座候
◇願くは諸兄よ、我林友の爲に兄等が休息
の一分、餘暇の一秒を割愛せられて、兄等
の研究、生活史の一編、若くは、雜感、偶
感、或は、地方風俗、傳説等其他の玉稿を
益々御惠投下されん事を伏して願上候。
◇終りに懇切なる先輩の御注意に依り、前
號の誤植を訂正致す可候。
誤 正
六頁二段左よ 人は人に問ひ 天に問ひ
四行目 全三段右より 神は誠心は 誠心に
十二行目 寮舎日記廿壹 春れた空 晴れた空
四行目 十二頁左より 雨下 雨下

【餘録】

○木の供養。木彫界の梅檀社の連中が平素
木を虐待する罪に五月九日午後向島の百
花園内、ク、ノチノ神とカヤツメ姫の神の
古碑の前で木の供養を行ひ午後四時擧式、
祭主白蠶神社社外俗人の奏樂裡に清祓、
供饗、祝詞などあり會衆二十名玉串を捧げ
式後清宴を催せるが木に因める料理の洒落
面白く樂燒の餘興ありて薄暮に散會せるは
近頃珍奇なる催しといふべし
○先日京都の武徳會の武術試合に本校の小
貫、里見兩師出席優勝を得たるは前記の通
りなるが伊東、吉澤の二君も見學の爲、出
席の所、うまく試合の組に入れられ天下の
槍舞台にて勝負を競ひ伊東君は柔道、吉澤
君は擊劍にて勝利を得たり抜けがけの勝と
は此事なり

◇(定價金參錢)◇

大正七年五月廿三日印刷

長野縣西筑摩郡岡野町四〇四番地

長野縣西筑摩郡岡野町五七〇番地